

管理・監督者研修
「八甲田山死の彷徨」に学ぶ
カリキュラム

対 象 業 種

- 一 般 企 業
- J A
- 金 融 機 関
- 行 政 体
- 公 的 団 体

等

JMI

株式会社 日本マネジメント協会（中部）

JAPAN MANAGEMENT INSTITUTE

〒464-0075 名古屋市千種区内山3-10-17 今池セントラルビル4F

TEL 052-745-6010 FAX 052-732-0010

MAIL jmi.145@aioros.ocn.ne.jp URL <http://www.jmi-web.co.jp>

「八甲田山死の彷徨」を題材としたケース・スタディの主旨

◆ ケース・スタディの主旨

変化の激しい新たなる時代を迎えている現在、既成概念とか前例踏襲、横並び主義を打破して、管理・監督者として時代に対応するために、視野を広げ、発想、行動の転換が必要です。

そこで、「ノンフィクション事例」である「八甲田山雪中行軍の悲惨な遭難事故」を題材に非常時においてリーダーとして必要とする問題に対応する見識・態度と実践的なリーダーシップ行動について深く掘り下げることにより、時代に対応する管理能力の向上に結び付けることを目的とします。

◆ ケースの結末

徳島大尉と神田大尉をそれぞれリーダーとした、弘前第31連隊と青森第5連隊の「雪中行軍」は、ともに同じ「目的」を持ち、その目的を果たすために、ほぼ同時期に必要な「計画」が立案、決定され、それに基づいて「組織」が編成され、諸準備が行われて「実行」された。

しかし、その「結果」は、徳島大尉の率いる行軍は成功し、神田大尉率いる行軍は悲惨な失敗という結果となった。何故であろうか。

◆ リーダーとしての「実践的な管理能力」を体得する

ケースの時代は日露戦争前であり、組織は軍隊であって、現代の組織体制とは違いはありますが、この事実関係を深く掘り下げることによって、厳しい状況下におけるリーダーとして管理行動のあるべき姿を学ぶことができます。

厳しい情勢下にある現代の組織体においても、リーダーとしての判断や行動が組織の成果に大変な影響を及ぼします。

管理・監督者研修（ケース・スタディ）

～ 『八甲田山死の彷徨』 に学ぶ ～

研修内容

	第 1 日 目	第 2 日 目
9:00	開講 オリエンテーション 1. 新たなる時代に対応するために 1) 変化の時代のキーワード 2) 部下はリーダーの生きざまに学んでいる ～「礼節」の浸透と「気配り」～ 3) 時代に対応する基本スタンス 2. ケース・スタディの主旨と進め方 1) 研修の主旨のガイダンス 2) ケースのストーリー概要の説明と共有化	4. 研究成果の発表準備 1) 成功要因と失敗要因の分析結果を作表する 2) 教訓をいかに管理行動に活かすか 3) 成果発表のリハーサル(グループ内) 5. 研究成果の発表と相互評価 1) 研究成果の展示発表(グループ別) 2) 質疑応答と相互評価 3) 講師コメント
12:00		
13:00	3. 事実整理と分析・作表 <グループ研究> 1) なぜ徳島隊は無事に生還し、 神田隊は壊滅状態に陥ったのか ～徳島隊の成功要因と神田隊の失敗要因～ ↓ 2) 「八甲田山での教訓」をこれからの 管理行動にいかに活かすか ↓ 3) 第1日目のまとめ	↓ 6. 実践的リーダーシップの発揮 1) 求められるリーダーシップ機能の発揮 2) 開発レベルの判定と部下への働きかけ 3) 状況に応じた誉めるスキルと叱るスキル <グループコンセンサス> 7. まとめ 1) 自己開発(自己の強みと弱みの分析) 2) リーダーに求められる条件 3) 新時代を生き抜くために
16:30		閉講